

# 社会変動と学校： 学力低下と格差問題を中心に 調査結果を読む

---

苅谷剛彦

(東京大学大学院教育学研究科)

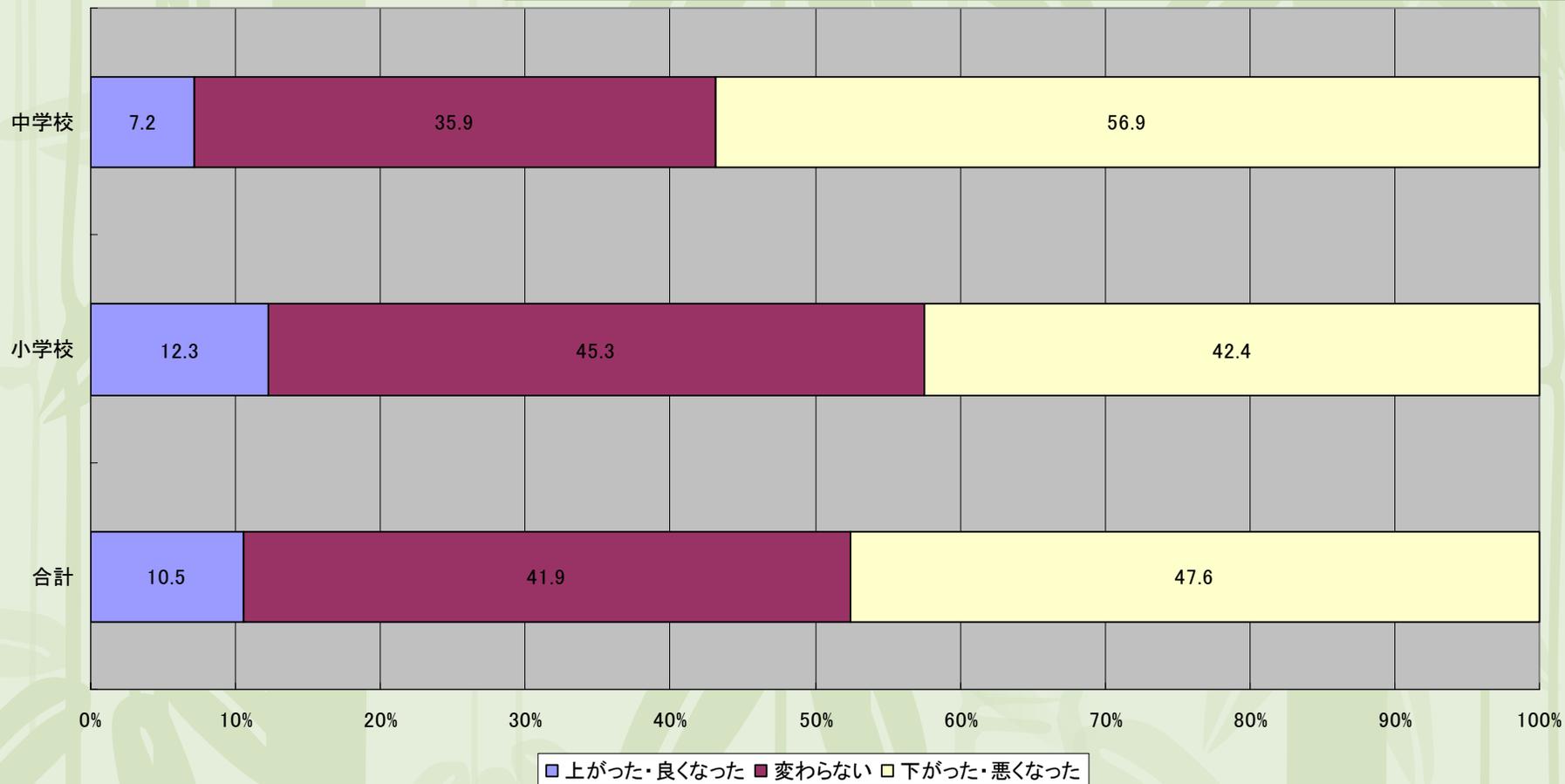
# 20年前との比較

---

- ❖ 学力低下→中学校で低下
- ❖ 教えにくい子ども→顕著な悪化
- ❖ 家庭の教育力→顕著な悪化
- ❖ 教員の指導力→やや悪化の傾向
- ❖ 学校への社会の理解・支援の大幅な低下

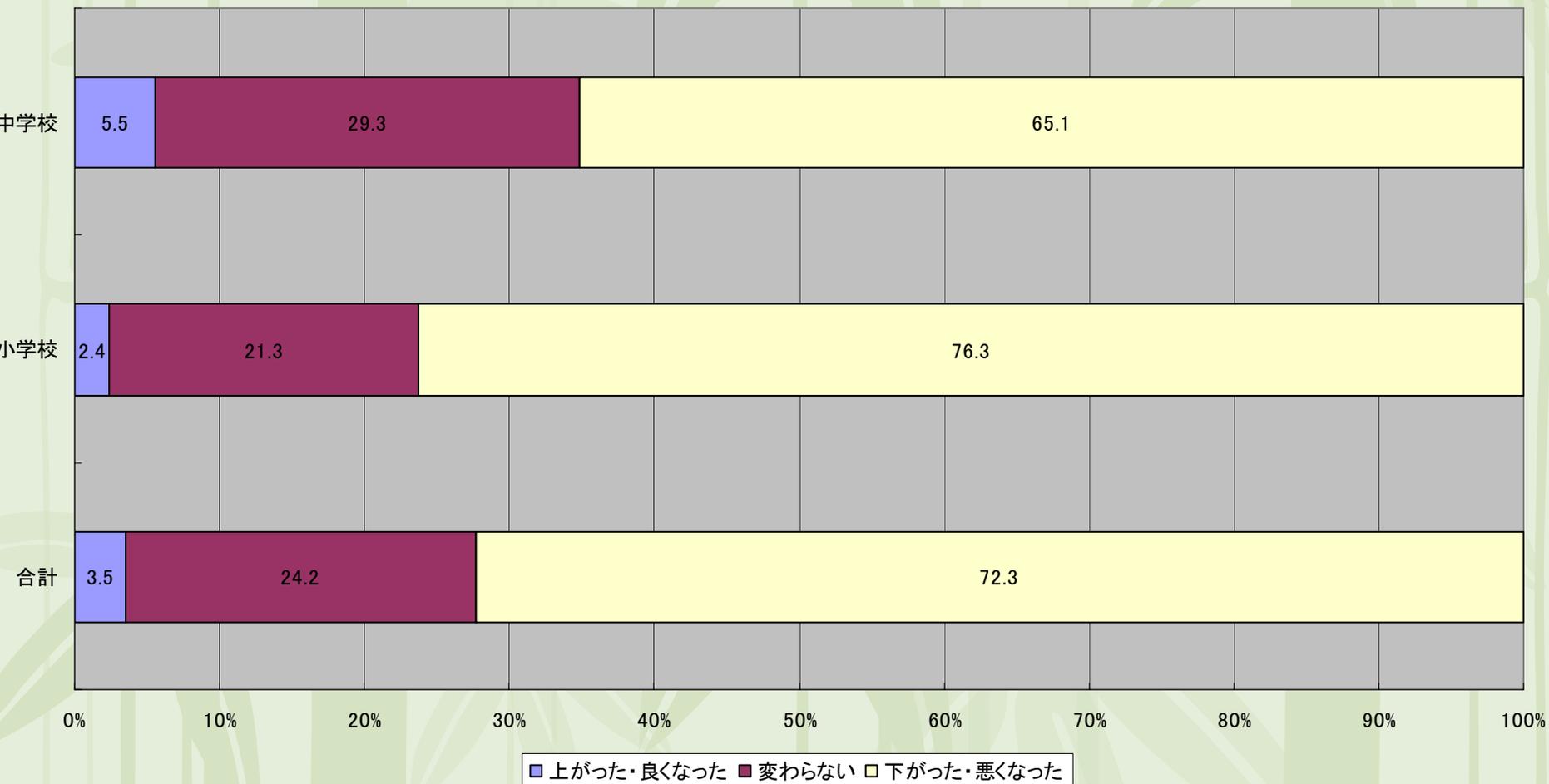
# 20年前と比べ学力は？

20年前と比べ「学力は低下」



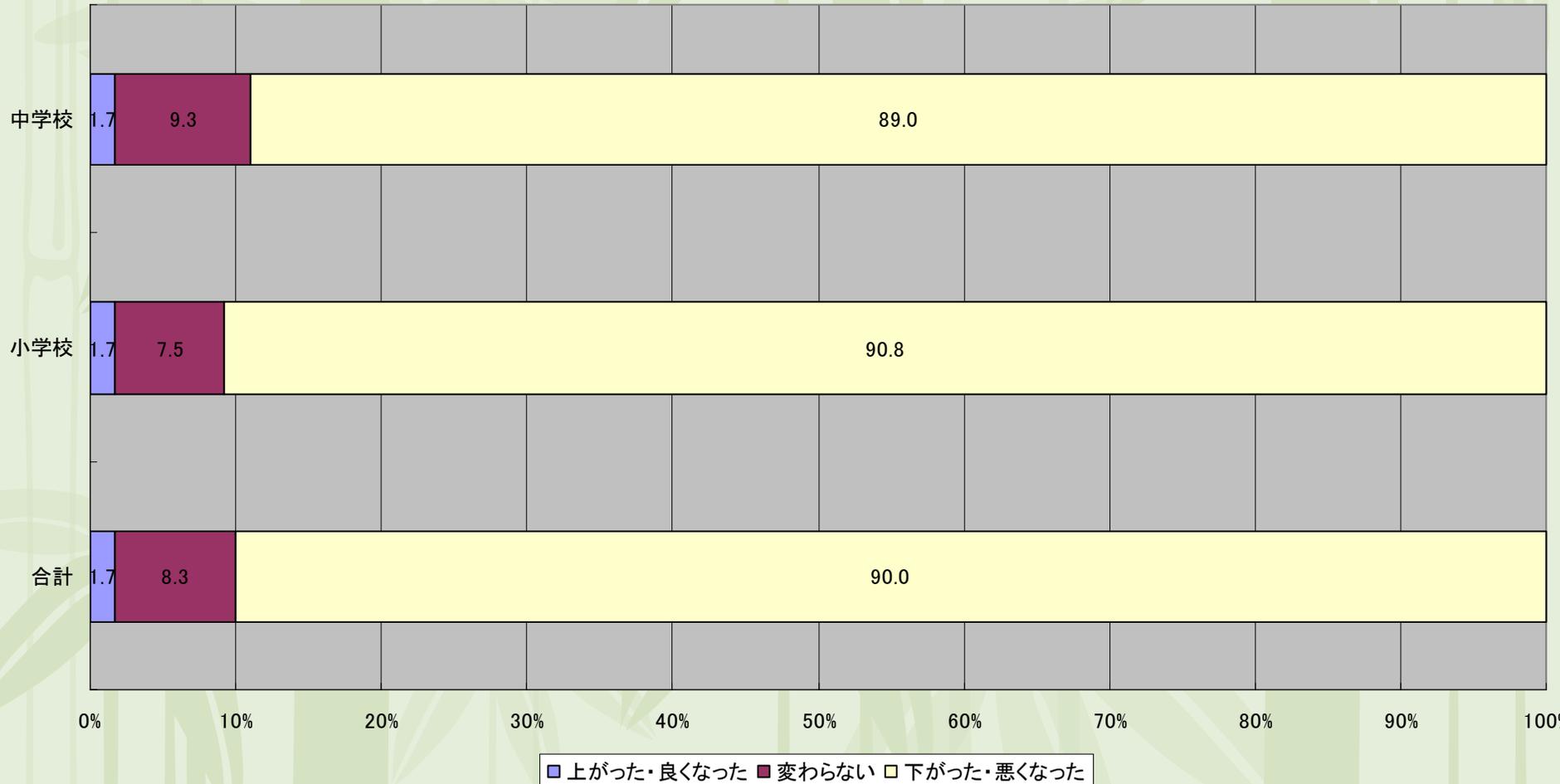
# 20年前と比べ 子どもは教えやすいか

20年前と比べ「子どもの教えやすさ」



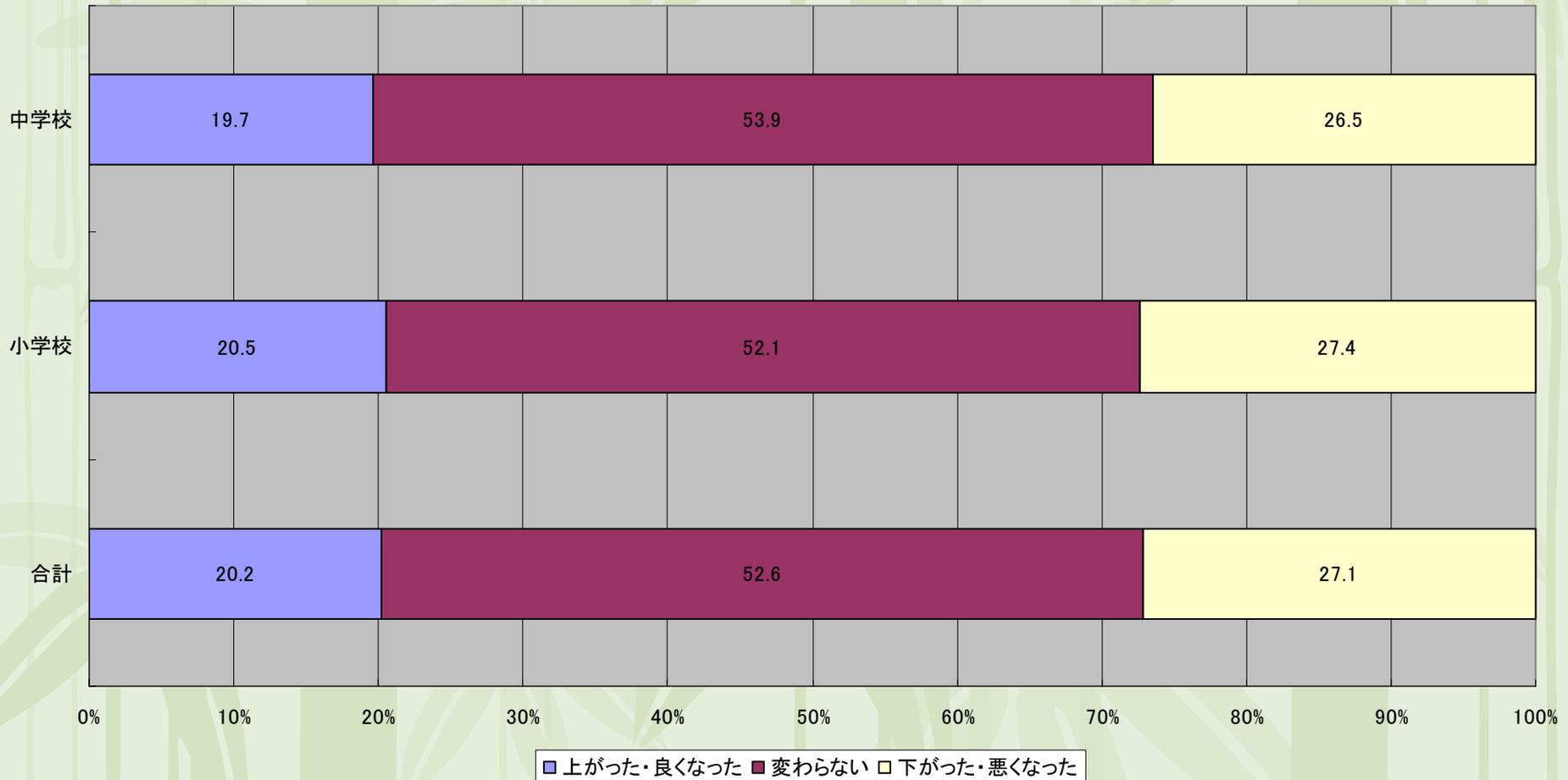
# 20年前と比べ家庭の教育力は？

20年前と比べ「家庭の教育力」



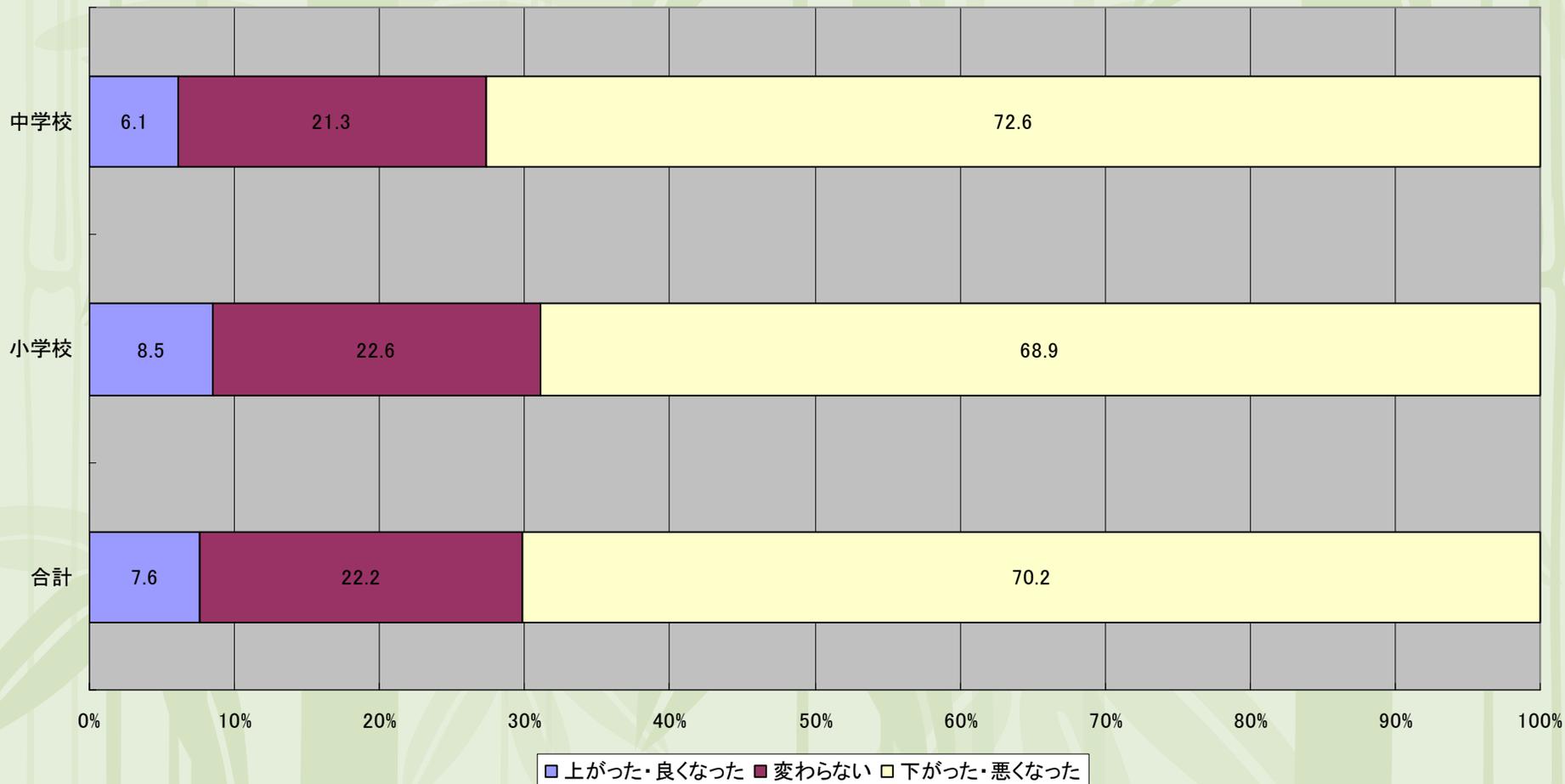
# 20年前と比べ教員の指導力は？

20年前と比べ「教師の指導力」



# 20年前と比べ 社会の学校への理解・支持は？

20年前と比べ「社会の学校への理解・支持」



# 学校運営・学力向上にとっての障害

---

## ❖ 家庭の問題

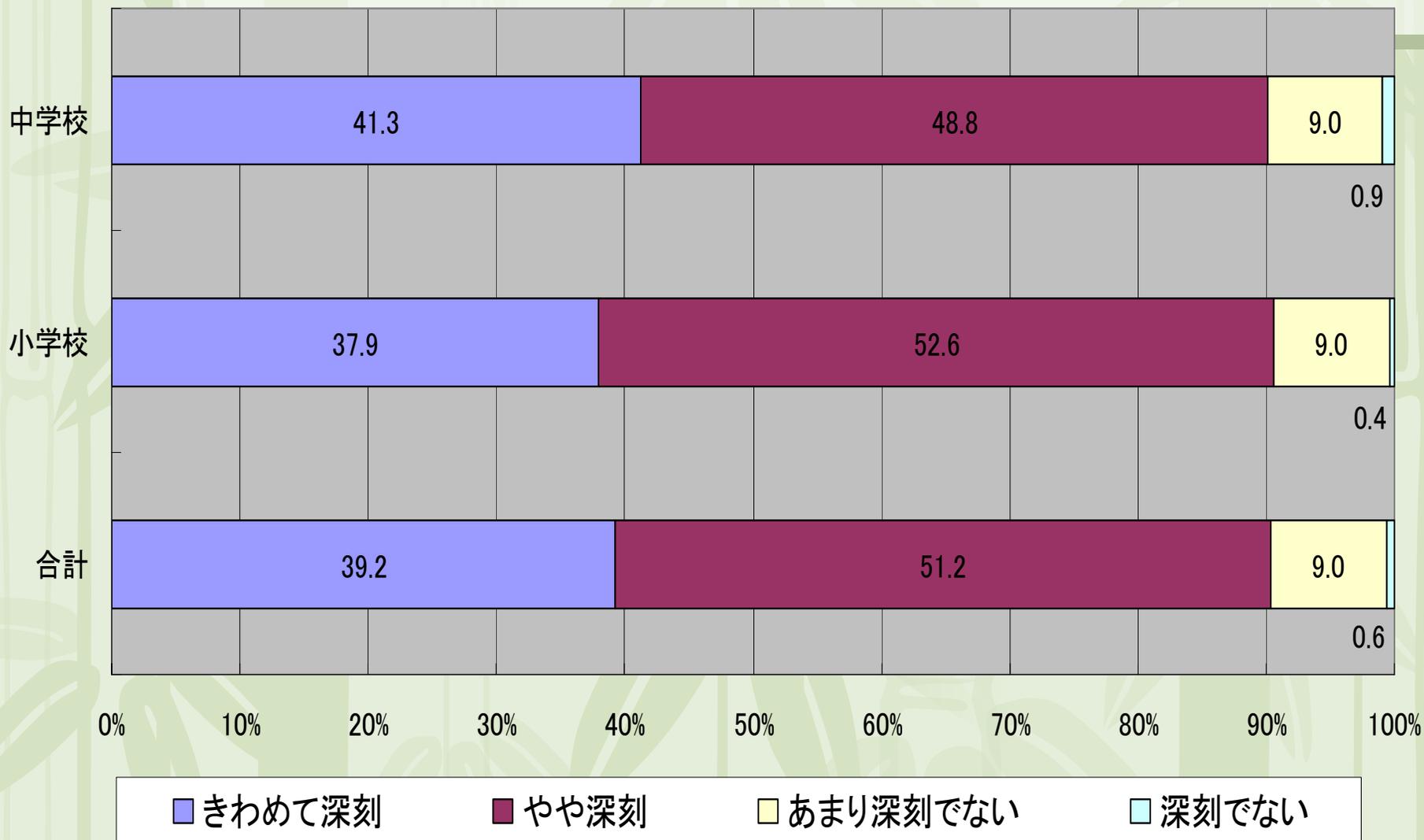
- ❖ しつけの欠如は深刻
- ❖ 特に教育力のない家庭がある
- ❖ 保護者の利己的な要求

## ❖ 教員の問題

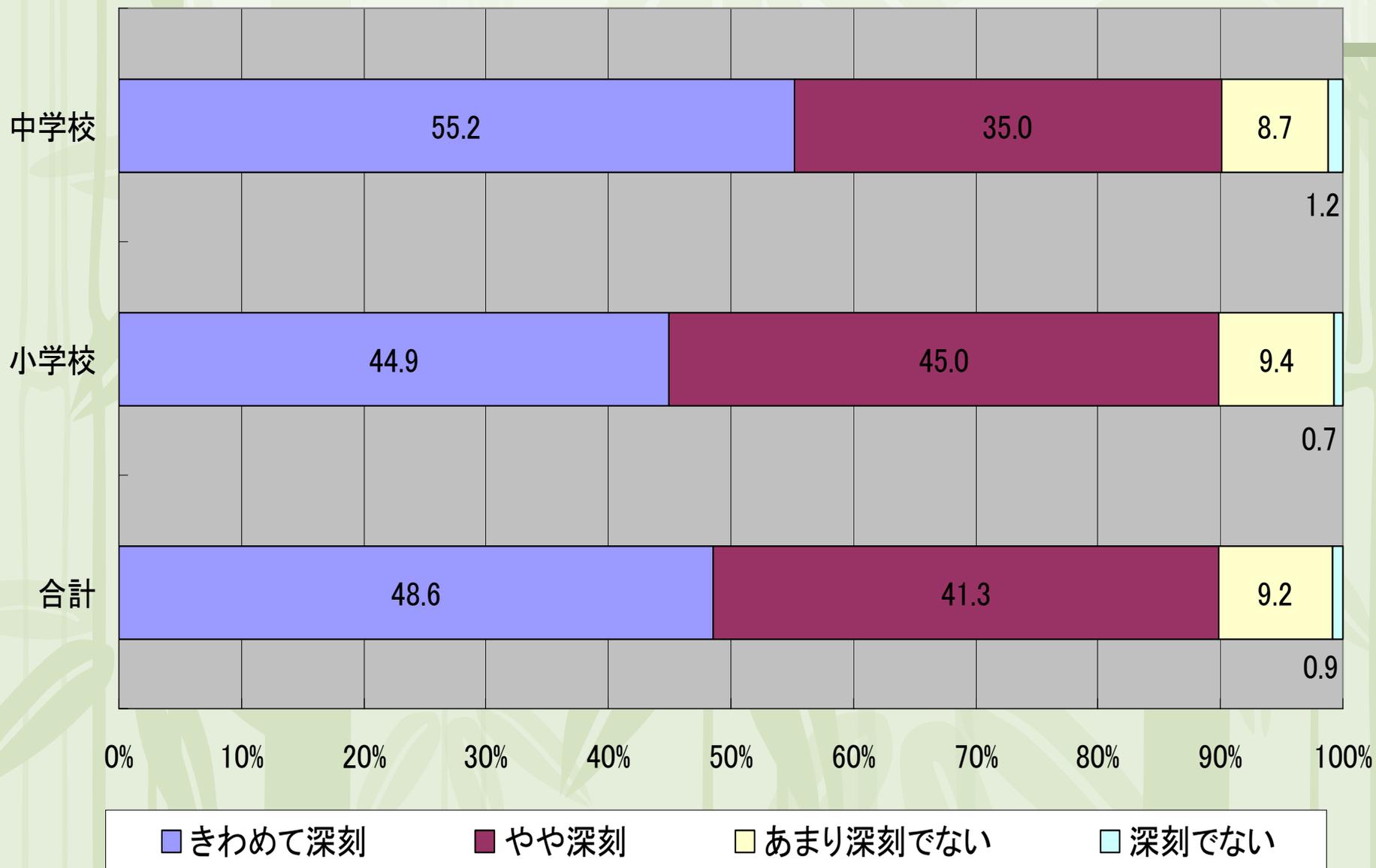
- ❖ 指導力が不十分
- ❖ 一部に問題のある教員

## ❖ 学校・教室の秩序維持が困難

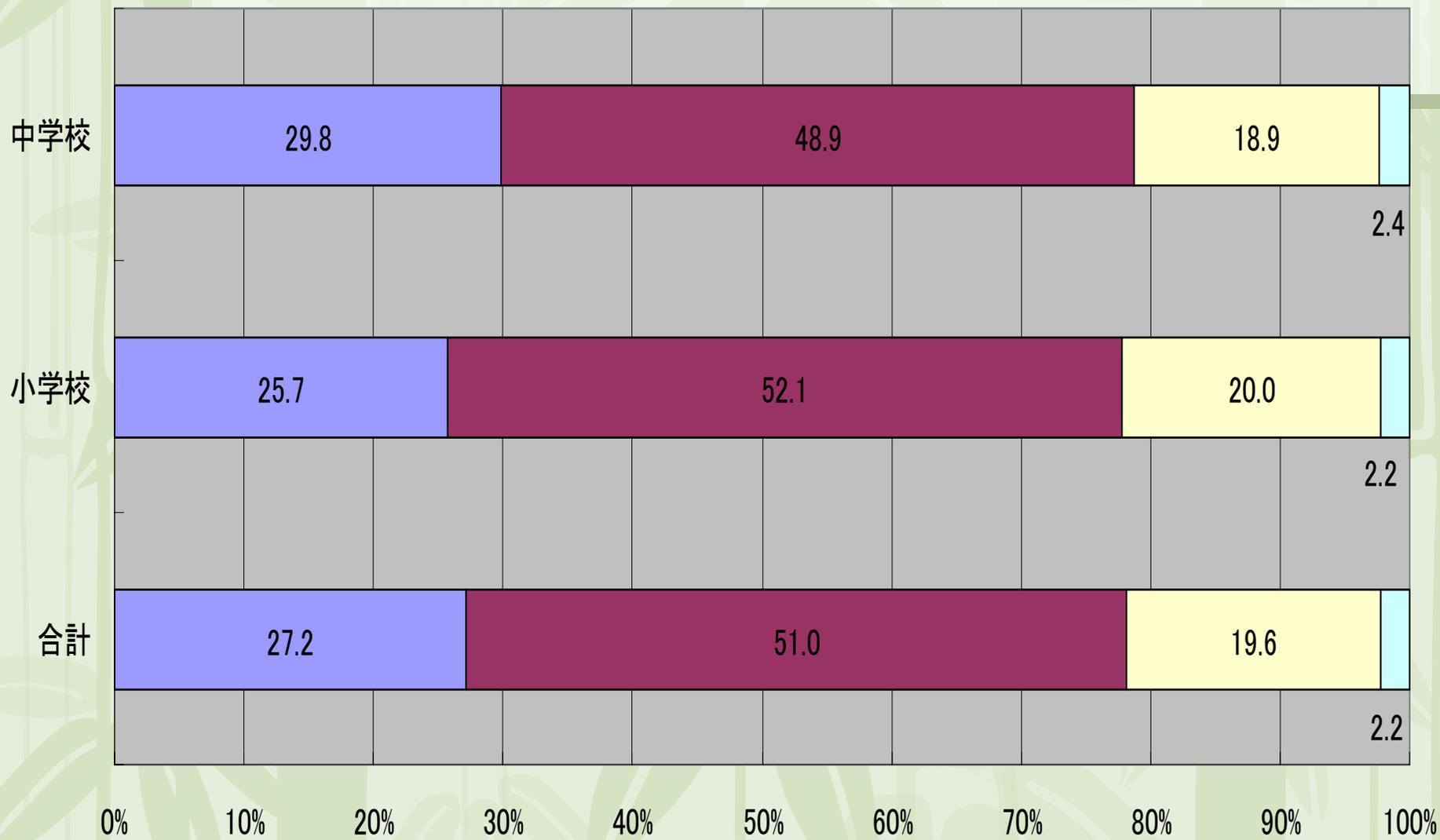
## 家庭での基本的なしつけが欠如



# 特に教育力のない家庭がある



# 保護者の利己的な要求



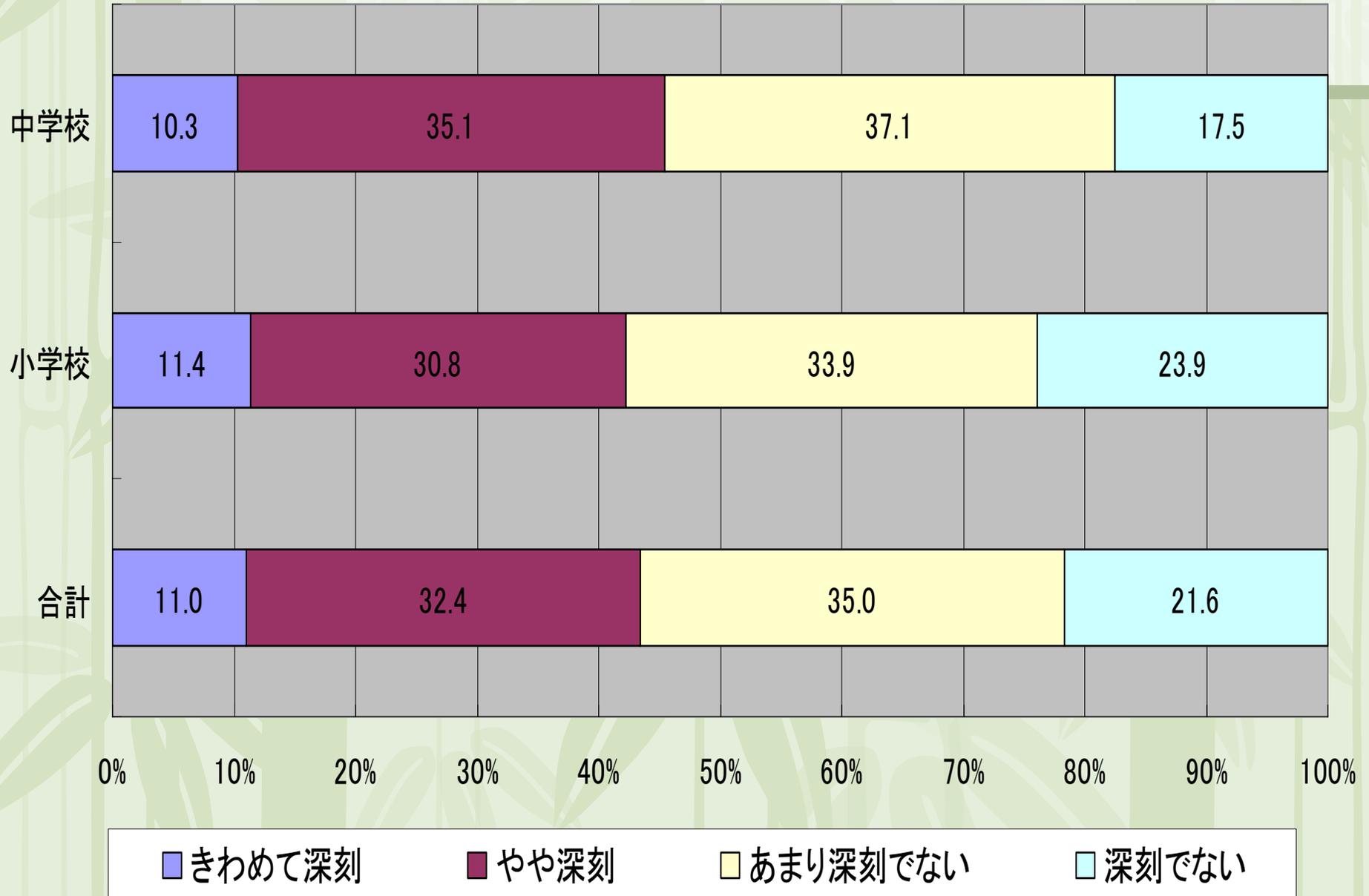
■ きわめて深刻

■ やや深刻

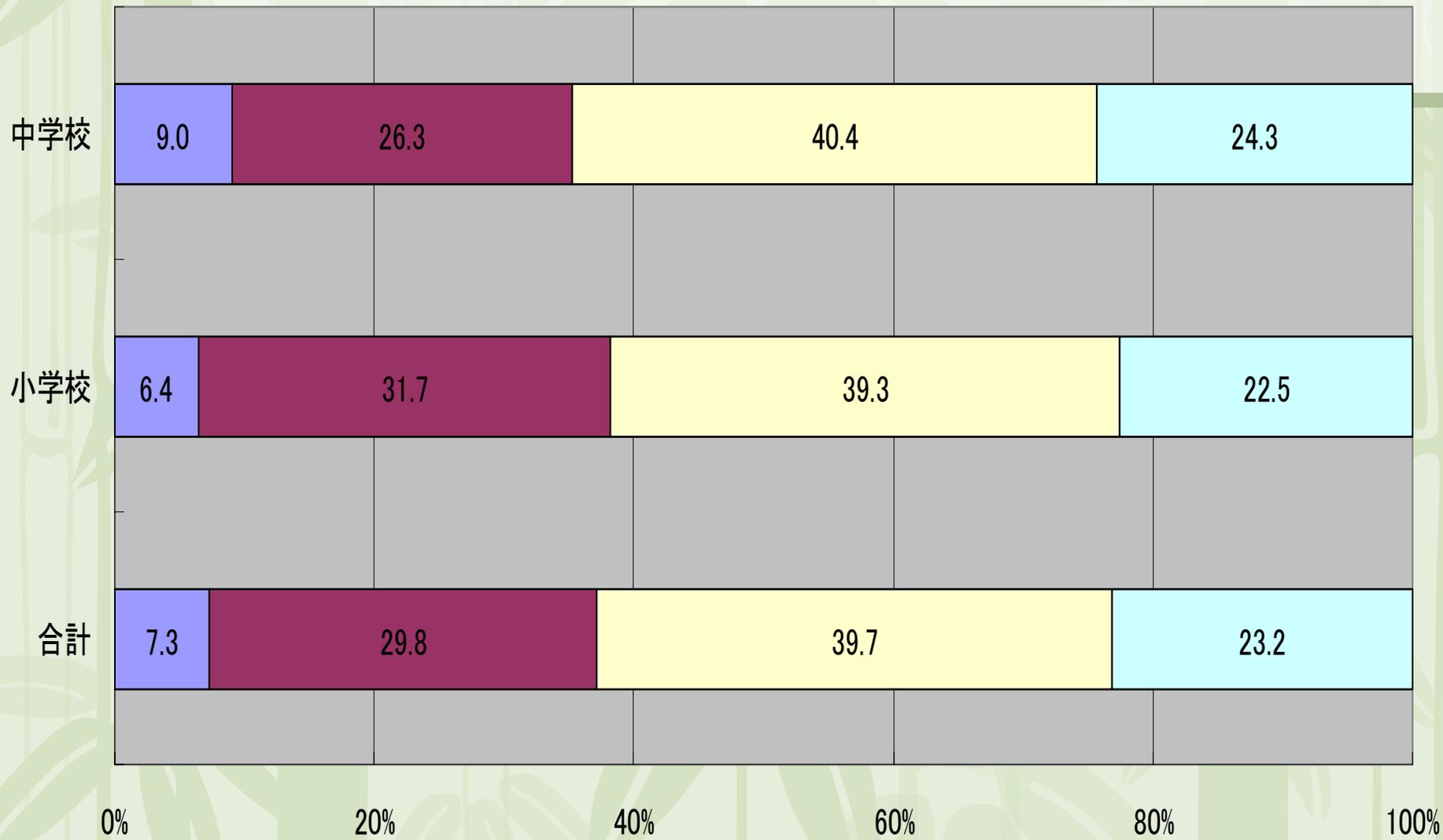
■ あまり深刻でない

■ 深刻でない

# 学級あたりの子どもの数が多い



# 学校・教室の秩序の維持が困難



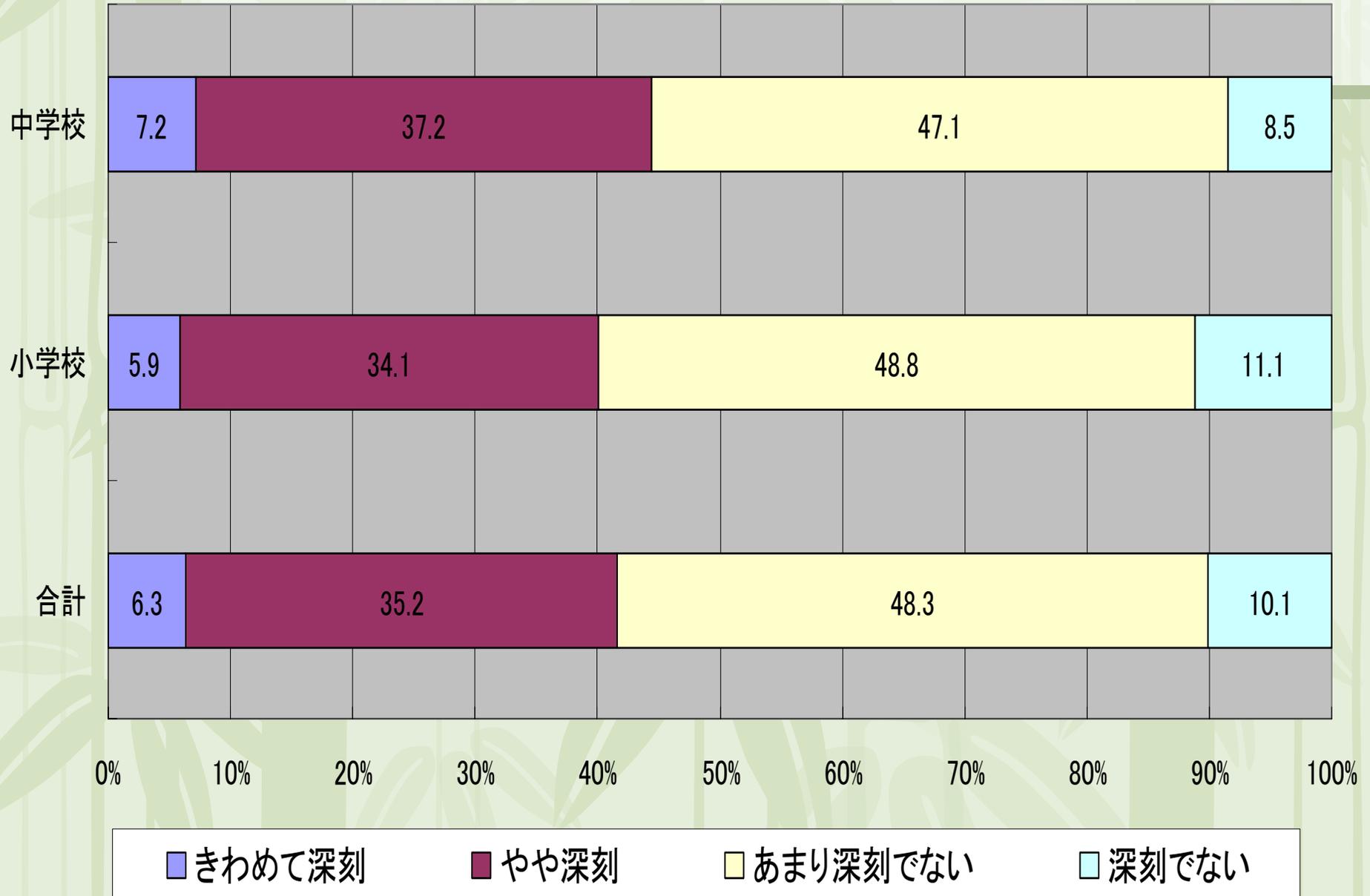
■ きわめて深刻

■ やや深刻

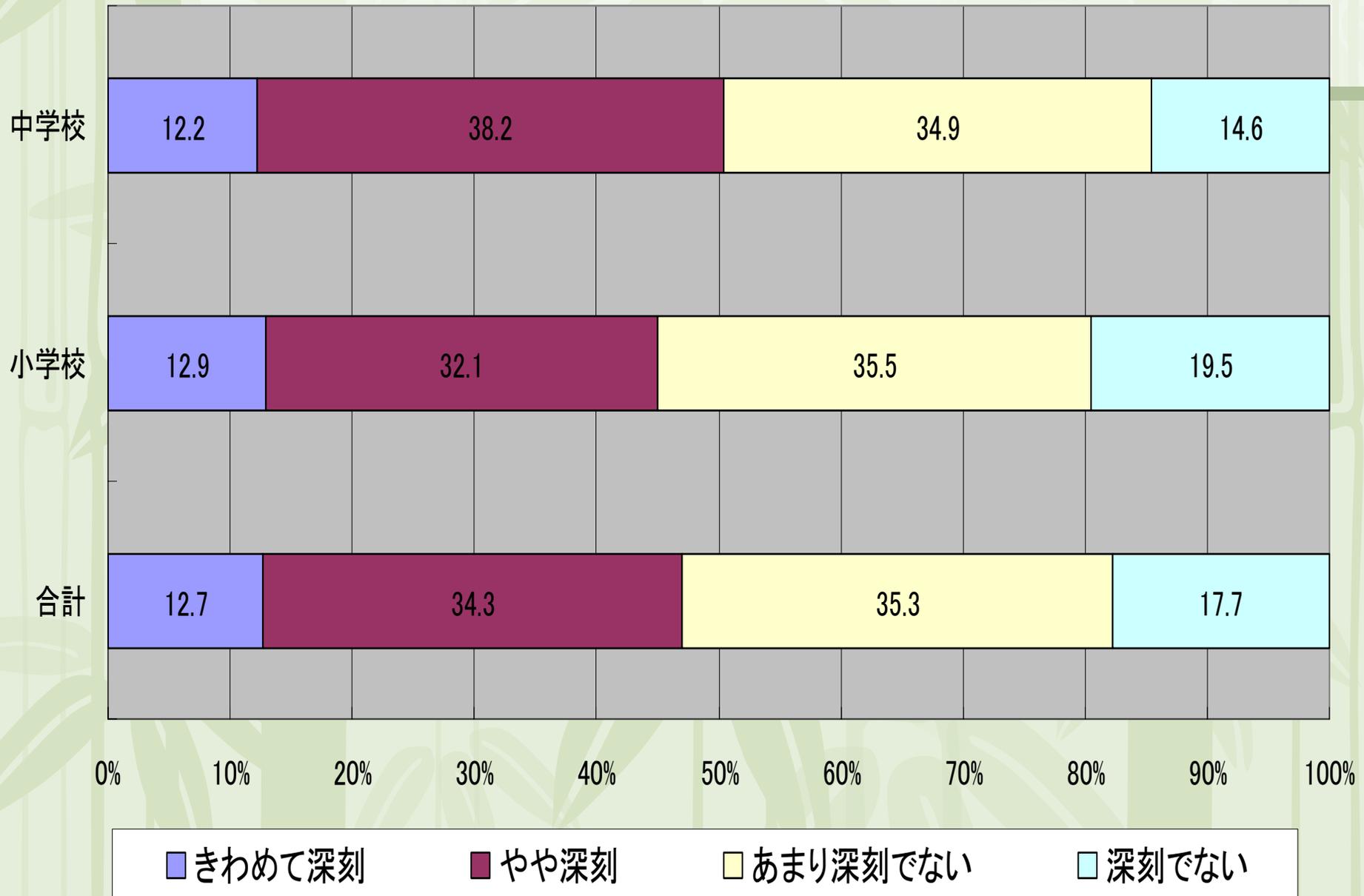
■ あまり深刻でない

■ 深刻でない

# 教員の指導力が不十分



# 一部に問題のある教員がいる

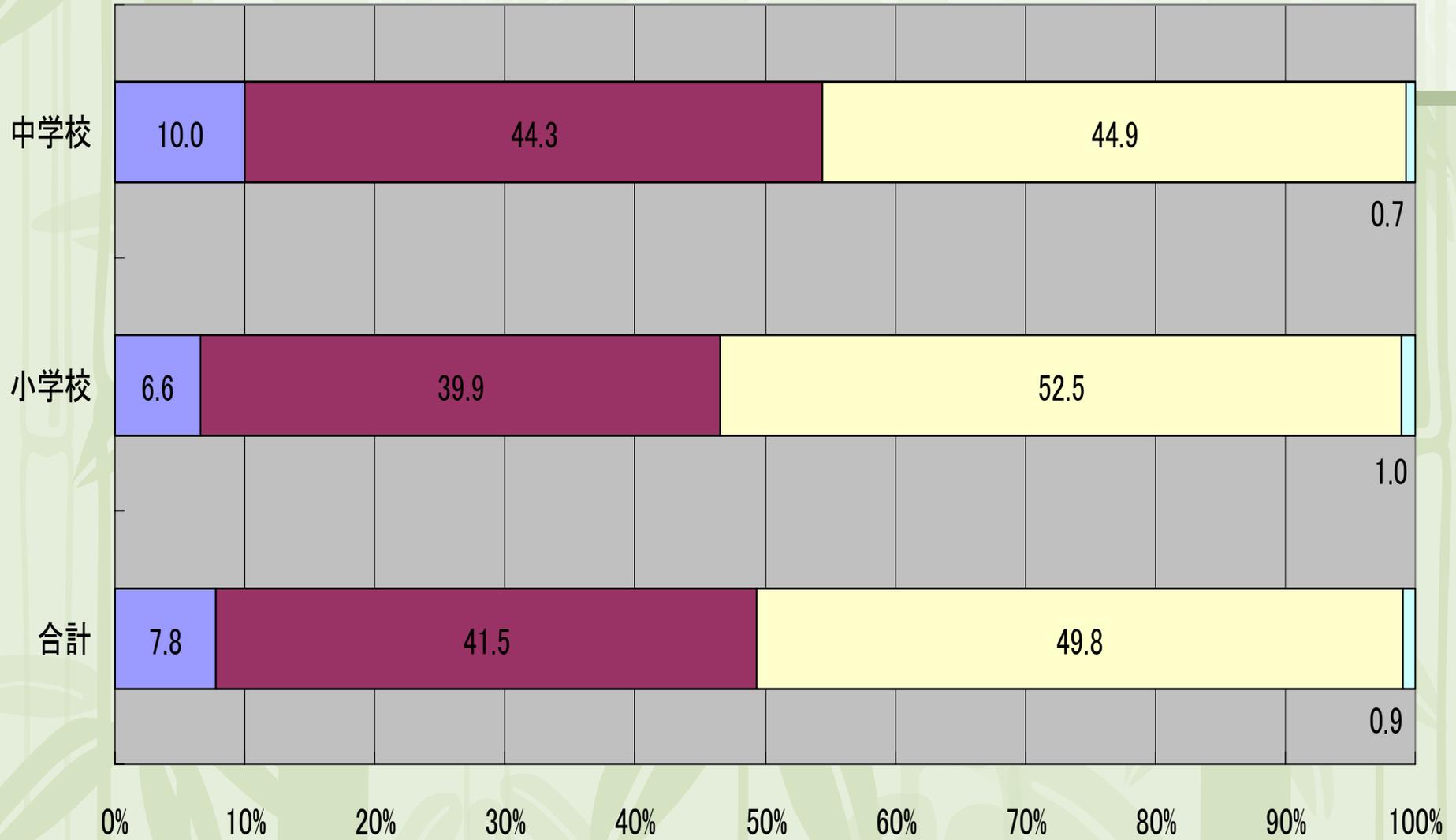


# 将来への危惧

---

- ❖ 将来学力低下はいつそう進む
- ❖ 将来学力格差はいつそう広がる
- ❖ 将来教育の地域間格差も広がる
- ❖ 将来公私間の格差も広がる
- ❖ 社会の学校への信頼が低下する

# 学力の低下が進む



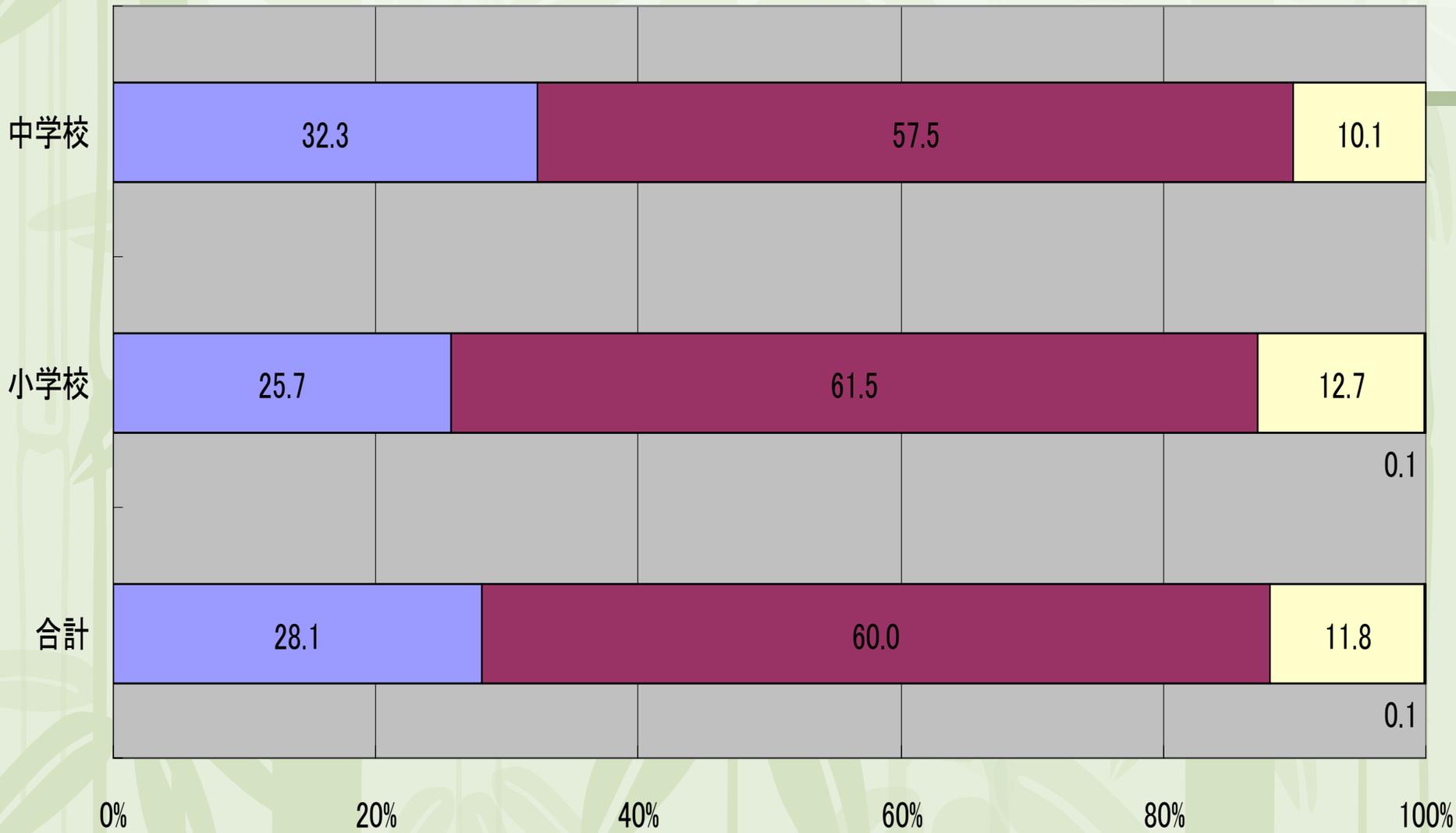
■ 強くそう思う

■ そう思う

■ そう思わない

■ 全くそう思わない

# 子どもたちの学力の格差が広がる



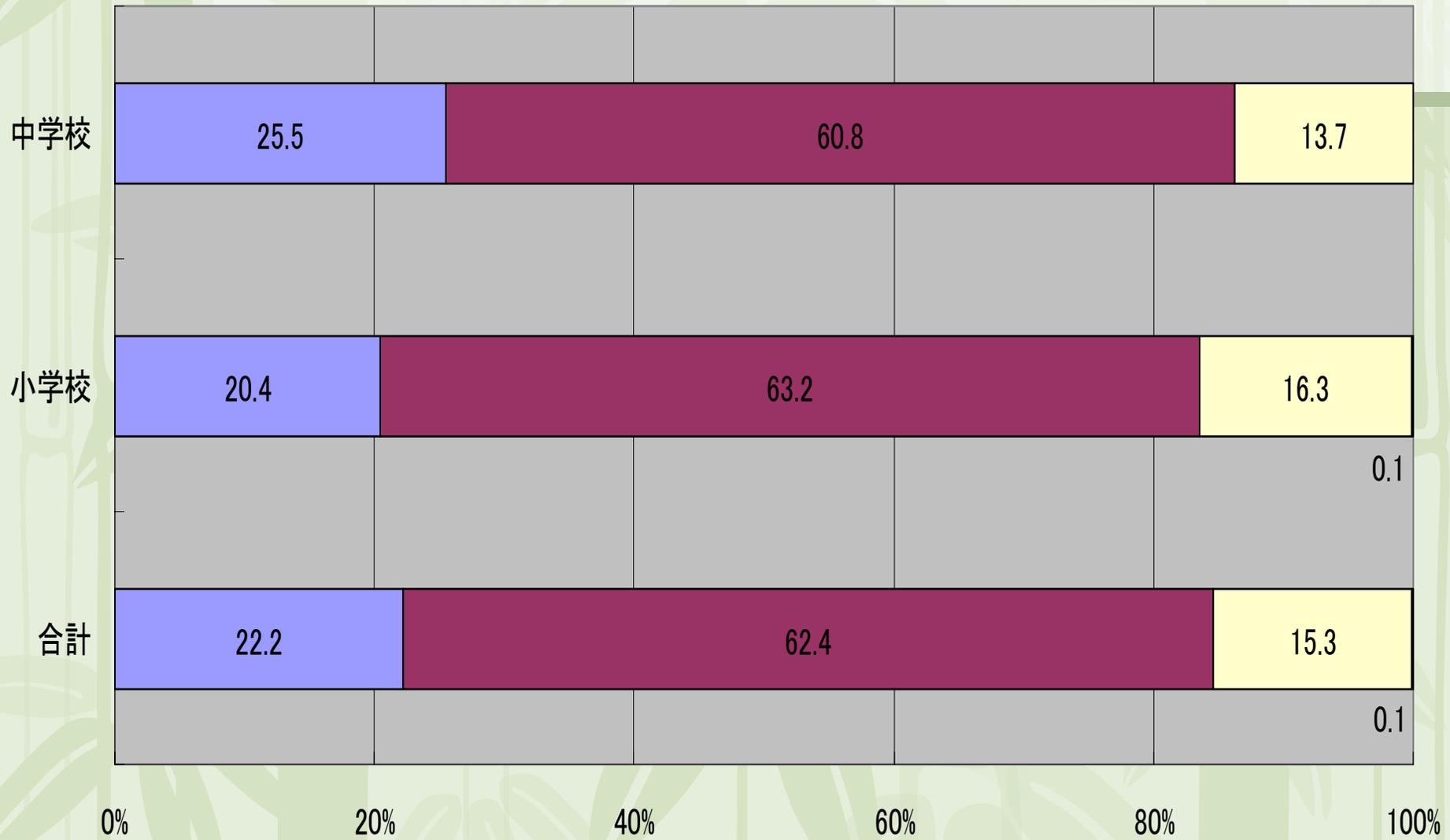
■ 強くそう思う

■ そう思う

■ そう思わない

■ 全くそう思わない

# 教育についての地域間の格差が広がる



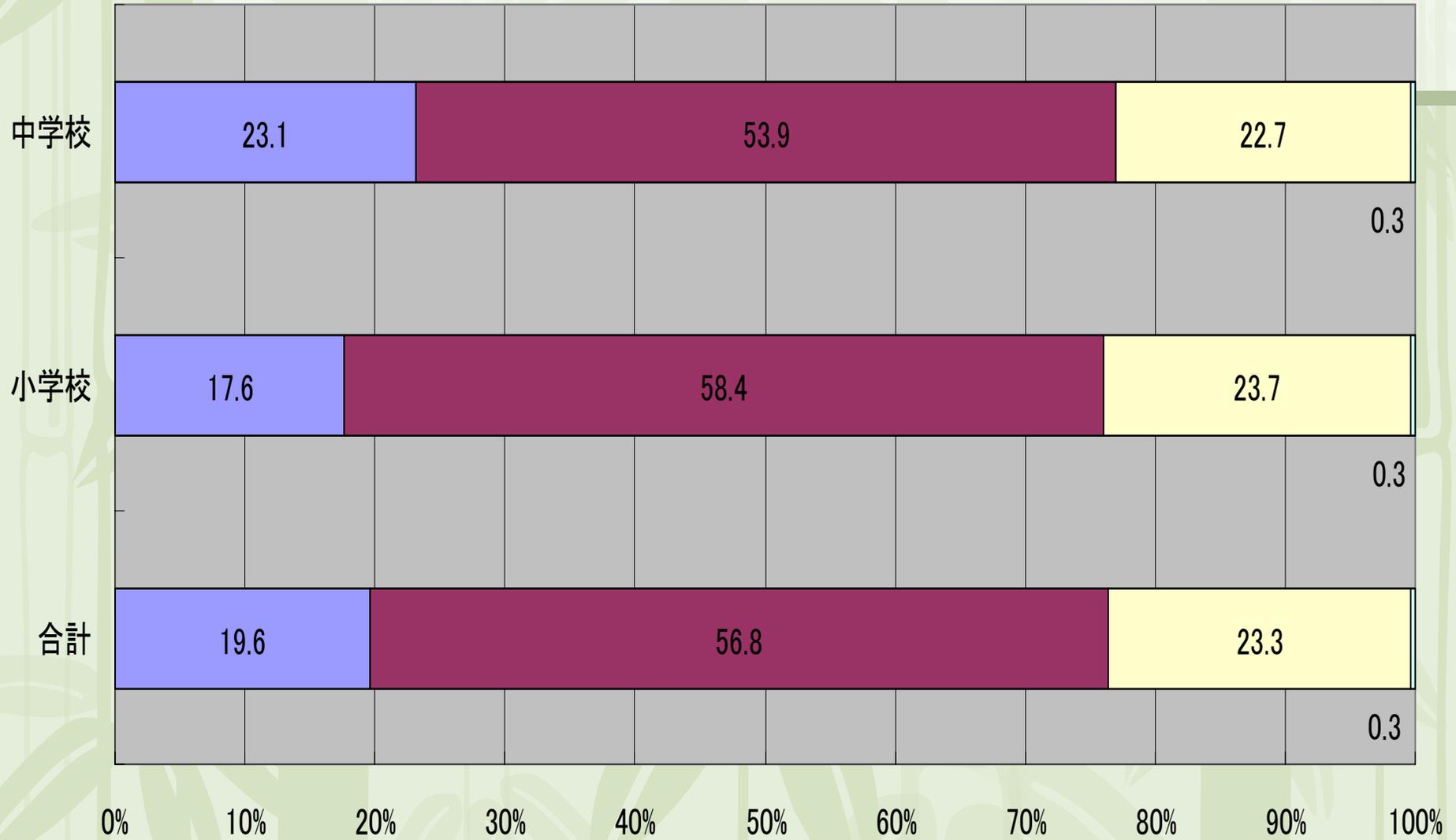
■ 強くそう思う

■ そう思う

■ そう思わない

■ 全くそう思わない

# 公立学校と私立学校との格差が広がる



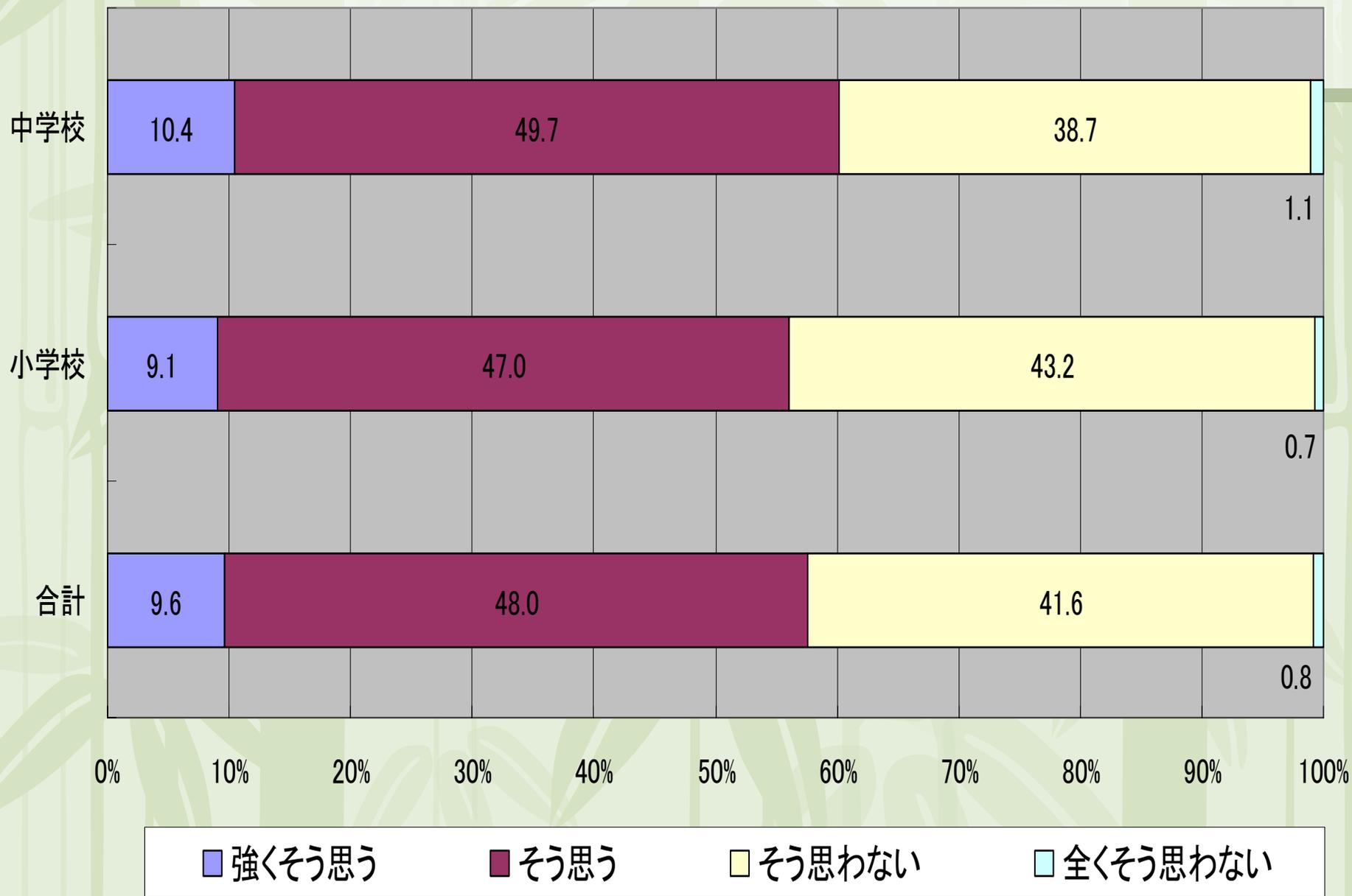
■ 強くそう思う

■ そう思う

■ そう思わない

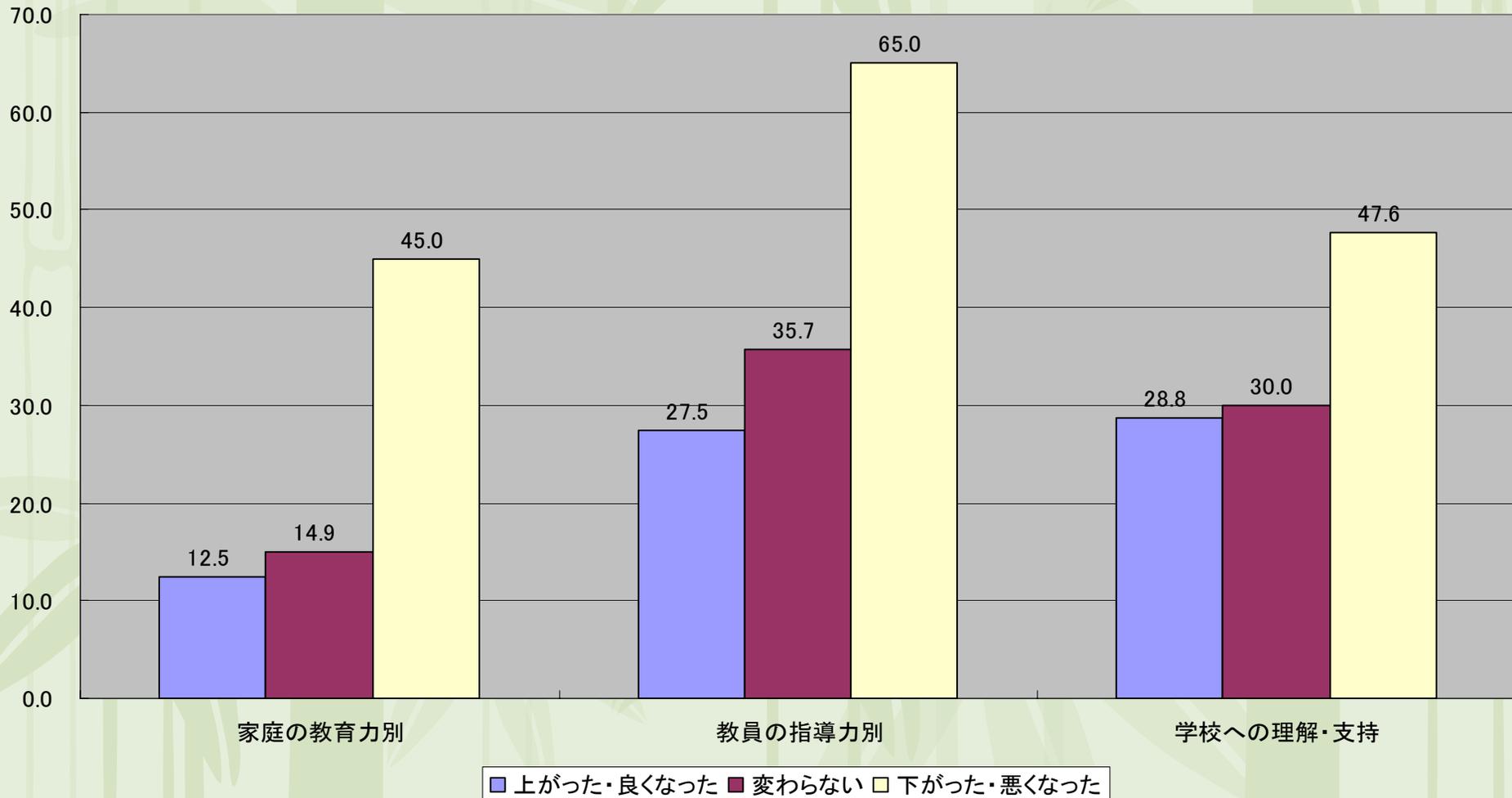
■ 全くそう思わない

# 社会の学校への信頼が低下する



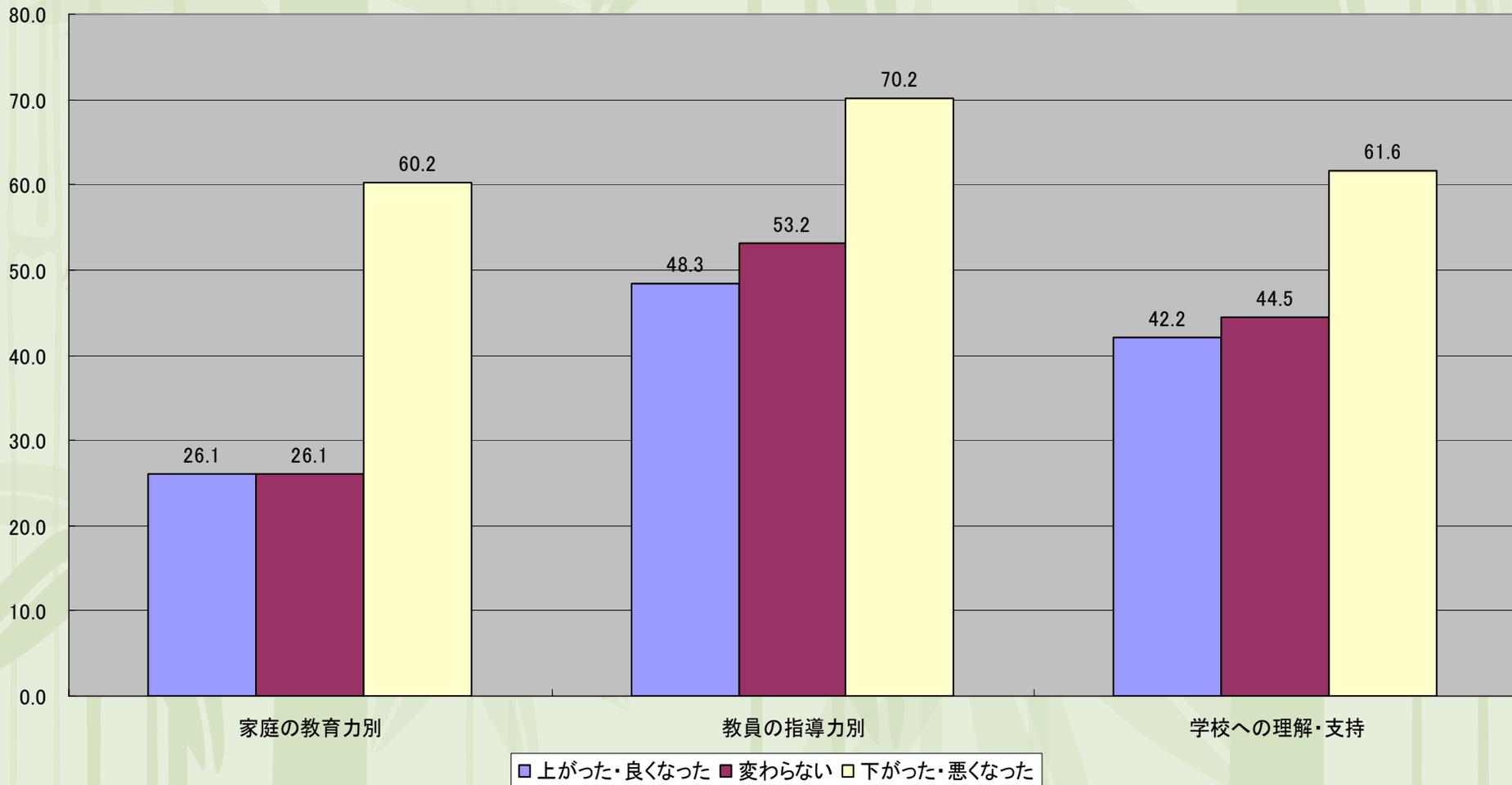
# 20年前との比較： 学力低下と相互の関係（小学校）

20年前と比べ子どもの学力が低下したと他の変化の関係（小学校）



# 20年前との比較： 学力低下と相互の関係（中学校）

20年前と比べ子どもの学力が低下したと他の変化の関係（中学校）



# 学力低下の認識はどんな学校が？

20年前と比べ学力低下したという認識を規定する要因  
(ロジスティック回帰分析)

	小学校		中学校	
	B		B	
20年前と比べ家庭の教育力低下	1.271	***	1.122	***
20年前と比べ教員の指導力低下	1.220	***	0.675	***
保護者の利己的要求深刻	0.139	*	0.105	
学級あたり子ども数多い深刻	-0.021		-0.083	
学校教室の秩序維持困難	0.222	**	0.149	+
一部に問題のある教員深刻	-0.040		-0.139	+
学校所在地・農村部	-0.181		-0.098	
学校所在地・市街地	-0.301	*	-0.004	
学校所在地・ベッドタウン	-0.212		-0.238	
通塾4割(5割)以上	0.024		-0.004	
定数	-2.461	***	-0.936	**

# 将来学力が低下するという認識 (重回帰・小学校)

	非標準化係数	標準化係数	有意確率
(定数)	1.906		0.000
20年前と比べ学力低下	0.409	0.319	0.000
20年前と比べ家庭の教育力低下	0.055	0.025	0.197
20年前と比べ教師の指導力低下	0.111	0.078	0.000
保護者の利己的要求深刻	0.077	0.090	0.000
学級あたり子ども数多い深刻	0.017	0.025	0.279
学校教室の秩序維持困難	0.009	0.013	0.608
一部に問題のある教員深刻	0.010	0.015	0.495
学校所在地・農村部	0.062	0.048	0.042
学校所在地・市街地	0.003	0.002	0.927
学校所在地・ベッドタウン	0.026	0.012	0.578
通塾4割以上	0.070	0.051	0.010

# 将来学力が低下するという認識 (重回帰・中学校)

	非標準化係数	標準化係数	有意確率
(定数)	1.704		0.000
20年前と比べ学力低下	0.413	0.306	0.000
20年前と比べ家庭の教育力低下	0.029	0.014	0.606
20年前と比べ教師の指導力低下	0.157	0.103	0.000
保護者の利己的要求深刻	0.139	0.158	0.000
学級あたり子ども数多い深刻	0.043	0.057	0.051
学校教室の秩序維持困難	-0.004	-0.005	0.875
一部に問題のある教員深刻	0.027	0.036	0.203
学校所在地・農村部	0.072	0.050	0.092
学校所在地・市街地	0.003	0.002	0.939
学校所在地・ベッドタウン	0.023	0.009	0.726
通塾5割以上	0.054	0.039	0.139

# 将来学力格差が拡大という認識 (重回帰・小学校)

	非標準化係数	標準化係数	
(定数)	2.660	0.068	***
20年前と比べ学力低下	0.145	0.026	***
20年前と比べ家庭の教育力低下	0.127	0.043	**
20年前と比べ教師の指導力低下	0.019	0.029	
保護者の利己的要求深刻	0.072	0.020	***
学級あたり子ども数多い深刻	0.008	0.016	
学校教室の秩序維持困難	-0.006	0.019	
一部に問題のある教員深刻	0.024	0.015	
学校所在地・農村部	0.000	0.031	
学校所在地・市街地	-0.038	0.034	
学校所在地・ベッドタウン	0.042	0.048	
通塾4割以上	0.045	0.028	

# 将来学力格差が拡大という認識 (重回帰・中学校)

	非標準化係数	標準化係数	
(定数)	2.442	0.087	***
20年前と比べ学力低下	0.209	0.034	***
20年前と比べ家庭の教育力低下	0.166	0.053	**
20年前と比べ教師の指導力低下	-0.047	0.038	
保護者の利己的要求深刻	0.102	0.024	***
学級あたり子ども数多い深刻	0.012	0.021	
学校教室の秩序維持困難	0.025	0.022	
一部に問題のある教員深刻	0.031	0.021	
学校所在地・農村部	0.079	0.041	+
学校所在地・市街地	0.082	0.042	+
学校所在地・ベッドタウン	0.054	0.063	
通塾5割以上	0.017	0.035	

- ❖ 家庭の教育力の問題(家庭間格差)  
格差問題にいかに対応するか
- ❖ 家庭からの学校への要求とそれへの対応
- ❖ 教員の指導力という問題  
教育財源・教員定数の削減にどう対応するか
- ❖ つらい見通しに、決め手はあるのか？

# 教育改革の進め方の見直しを

---

- ❖ 8割以上の学校が「学校が直面する問題に教育改革は対応していない」「教育改革が早すぎて現場がついて行けない」と回答
- ❖ 全国学力テストについても8割以上の学校が「結果を教育の改善にいかす方法が整備されていない」と回答
- ❖ 教育基本法改正については、3分の2の学校が反対意見